

| | | |
|---|--------------------|--------------------------|
| <h1>指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 平成30年4月発行</p> | <h1>幼児教育 第19号</h1> | |
| | 対象 校種 | 幼稚園 小学校 義務教育学校 特別支援学校 |

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を 共有する幼小連携の進め方

幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続するために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有することが求められている。そこで、幼稚園と小学校の教師が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する視点や具体的な連携の進め方を提案する。

1 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 資質・能力が育まれている姿

平成29年3月に公示された幼稚園教育要領において、今回新たに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（以下「10の姿」）が示された。これは、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿、すなわち、幼児期に育まれる資質・能力を可視化したものと言える。幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「10の姿（次項参照）」を念頭に捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくりたり必要な援助を行ったりするなど、指導の際に考慮することが求められている。なお、幼児期の教育において育みたい資質・能力は、次のとおりである。

- ア 豊かな体験を通じて、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- イ 気付いたことや、できるようになったことなどをを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ウ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

(2) スタートカリキュラムとの関連

一方、「小学校学習指導要領解説 生活編」では、「10の姿」との関連について、「これらの姿が、児童期の初期に目指す姿と重なるものであり、小学校においては、こうした具体的な育ちの姿を踏まえて、教育課程をつないでいくことが重要である。」と示している。そのため、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから教科等における学びに円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにするためのスタートカリキュラムを編成することが規定された。

スタートカリキュラムは、幼児期に育まれた力を発揮できるように、指導や時間、活動を幼児教育に倣いながら工夫し、次第に教科等を中心とした学習へとつないでいく。特に、「10の姿」を発揮できる場面を用意し、一人一人の実態に応じながら、徐々に小学校の授業に適応させていく。つまり、「10の姿」は、幼稚園と小学校の教師双方が指導の際に考慮するものであり、より効果的に生かすためには、合同の研究（研修）会で意見交換を行ったり、事例を持ち寄って話し合ったりすることが、これまで以上に重要になってくる。

表 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

| | |
|----------------------|--|
| 健康な心と体 | 幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。 |
| 自立心 | 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、行動するようになる。 |
| 協同性 | 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりして、充実感をもってやり遂げるようになる。 |
| 道徳性・規範意識の芽生え | 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつつたり、守ったりするようになる。 |
| 社会生活の関わり | 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるなどとして、社会とのつながりなどを意識するようになる。 |
| 思考の芽生え | 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。 |
| 自然と関わり命・尊重 | 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付くも、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。 |
| 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づき、これらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。 |
| 言葉の伝え合い | 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりと、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 |
| 豊かな表現 | 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。 |

2 円滑な接続のための教育課程編成

小学校教育との円滑な接続の重要性を受け、これまで、各幼稚園・小学校においては様々な形で幼小連携を進めてきている。しかし、平成28年度幼児教育実態調査の結果（図）からも分かるように、「教育課程の編成に関し、小学校と連携した」と回答した幼稚園は、全

体で59.5%に留まっている。中央教育審議会答申（平成28年8月）においても、子供や教員の交流は進んできているものの「幼稚園教育と小学校教育との接続では、教育課程の接続が十分であるとはいえない状況である。」との課題を挙げている。

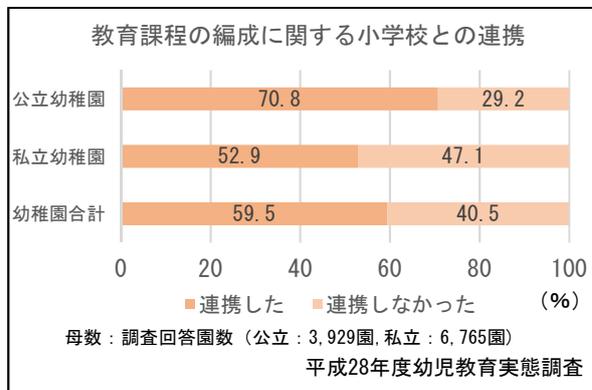


図 教育課程の編成に関する小学校との連携

そこで、今回の改訂では、「10の姿」を幼稚園と小学校の教師で共有するなど連携を図り、双方の教育課程編成に生かすことで、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るよう努めることが明示された。

3 「10の姿」を共有する視点

「10の姿」は、幼稚園の教師が適切に関わることで、特に幼稚園生活の中で見られるようになる幼児の姿である。幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法が異なっているため、「10の姿」からイメージする子供の姿にも違いが生じると考えられる。そこで、教師同士で話し合いながら、子供の姿を共有することが大切であるが、その際、次の視点で共有することを提案する。

- (1) 小学校教育へのつながりを考える。
- (2) 生活や遊びの事例から捉える。

(1) 小学校教育へのつながりを考える

ここでは、「10の姿」がどのように小学校教育につながっていくかを考えてみる。例えば、「協同性」で示された姿は、遊びの中で友達と言葉のやり取りを通してイメージを共有し、「〇〇ごっこをしよう。」「一緒に〇〇を

つくろう。」といった共通の目的をもつことで見られるようになる。友達とやり取りをする中では、自分と異なる考え方に会うこともあるが、互いの異なる考え方を擦り合わせ、話し合いながら選択・決定をする大切な経験である。「協同性」は小学校の集団としての授業を可能にする態度であり、小学校の活動で更に伸びていくものである。このような話し合いを受け、小学校では、入学当初にグループで話し合っただけの決めるゲームを取り入れるなど、幼児期に経験したことを生かした活動を取り入れることが考えられる。

このように、他の姿についても、小学校教育とのつながりについて幼稚園と小学校の教師が話し合うことで、幼児期の学びや育ちを小学校に円滑につなぐことができると考える。

(2) 遊びの事例から「10の姿」を捉える

幼児期における遊びを通じた総合的な学びは、遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを通じて育まれるものである。幼稚園の教師には、保護者や小学校教師等に、幼児期の資質・能力がどういう現れとなり、どのような方向に伸びていくかを、具体的なエピソードで語る力があることが求められる。「10の姿」は、その際の手掛かりとなるものである。

4 「10の姿」と子供の変容の具体例

ここでは、6月頃の3・4・5歳児が、容器を使って水遊びをしている様子から「10の姿」を捉えてみる。

(1) 3歳児の姿

この頃になると、左右の手の協調が進み、プラスチック製容器の蓋を外して水を入れたり蓋を閉めたりすることができるようになる。両手で容器を押すことで水が飛び出してくる面白さや、水を飛ばすと地面の色が変わる不思議さに心動かされ、繰り返し楽しむ姿が見られた。空気と水、土や砂の性質などにおぼ

ろげながら気付いている（思考の芽生え）とともに、自然の不思議さやそれらを使って遊ぶ面白さを感じている（自然との関わり）。



写真1 3歳児の水遊びの姿

(2) 4歳児の姿

この頃になると、友達と関わって遊ぶことが増え、容器を押す力の入れ具合で水の勢いが変わることに気付いたり（思考力の芽生え）、教師が用意した的に向かって水を飛ばすゲームを、友達と一緒に楽しんだりする姿が見られた（自然との関わり、言葉による伝え合い）。また、「～しながら～する。」というような、複数の動きを同時に行うことができるようになり、容器を押しながら、地面やコンクリートに、水の線で丸や曲線を描いて楽しむ姿も見られた（豊かな感性と表現）。



写真2 4歳児の水遊びの姿

(3) 5歳児の姿

この頃になると、「前後」、「大小」、「長短」だけでなく、「前-中-後」、「大-中-小」で世界を捉えることができるようになり、「ちょっと」や「もっとたくさん」などの微妙な違いの理解・表現ができるようになる（数量や図形などへの関心・感覚）。そのため、友達と言葉を介しながら遊びを広げていく姿が多く見られた（協同性、言葉による伝え合い）。また、水

の出し方を加減しながら、キャラクターの顔を上手に描く姿も見られた（健康な心と体、豊かな感性と表現）。しかも、描いた絵がすぐに乾いてしまわないよう、日陰を選んで描いていた（思考力の芽生え）。



写真3 5歳児の水遊びの姿

このように、一つの遊びについても年齢によって幼児の見せる姿は違うため、幼稚園の教師は、どのような姿が見られ、そこにどのような学びがあるのか、また、教師の働き掛けにはどのような意図があったかなどを、小学校教師に説明することが大切である。

(4) 小学校入学当初の姿

生活科「みんなであそぼう」において、子供たちは、水を入れたペットボトルを水鉄砲に見立て、水を飛ばす距離を競って楽しむ遊びを通して、蓋に開けた穴が小さい方が、遠くまで水を飛ばすことができることに気付いていた（思考の芽生え、数量への関心・感覚）。また、遊びを通して気付いたことや面白かったことを、言葉で教師や友達に伝える姿が多く見られた（言葉による伝え合い）。



写真4 1年生の水遊びの姿

さらに、友達と水の掛け合いを楽しむ姿も見られたが、これは、1年生の子供たちが遊びの中の行動として妥協や譲歩ができるからであり（道徳性・規範意識の芽生え）、友達と遊ぶ楽しさを幼児期から十分実感してきてい

るからこそ成立する遊びであると考えられる。

5 これからの連携に向けて

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のためには、いきなり研修等を開いて協議するのではなく、子供同士、又は教師同士の交流を通して、互いの教育内容や指導方法を理解することから始める方が有効である。交流から連携、そして接続という段階を踏まえることで、より円滑な接続につながる。

子供同士の交流活動を行う際は、招かれた方がお客さんとして参加するのではなく、それぞれがねらいを達成する互惠性のある活動となるように計画することが大切である。また、活動後は必ず教師同士で振り返り、課題があれば改善策を立てて次年度に引き継ぐことも大切である。

交流を通して互いの連携を深めた次の段階として、合同の研究会や研修会等を設定する。その際のテーマ例としては、次のようなものが考えられる。

- 幼稚園教育要領・学習指導要領の読合せ
- 1年間の交流活動の流れ
- 保育及び授業参観を通じた具体的な子供の姿や教師の指導等
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 接続期カリキュラムの編成 など

幼稚園要領解説では、「10の姿」それぞれの解説の中で、小学校との接続について書かれている。幼稚園では、これを手掛かりに、小学校教育を見通した援助が可能になり、小学校においては、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を受け継ぎながらスタートカリキュラムを作成することができるので、参考にしてほしい。

-引用・参考文献-

- 文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年3月
- 文部科学省『小学校教育要領解説 生活編』平成30年3月
- 『保育者の専門性とは何か』白石崇人著、2015 社会評論社
- ぽっけPLAZA『幼児期の教育と小学校教育の接続の展望』

https://www.en-pokke.com/news_service/view/1001

（教職研修課 内田 奈緒美）